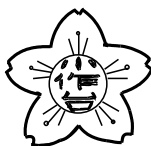


よく考える子
思いやりのある子
げんきな子



学校通信 小作台

小作台小・校長ブログは
こちらから。→



第 4 号

令和 8 年 6 月 2 6 日

羽村市立小作台小学校

審美眼を養う ～本物・本質を見抜く力を身に付ける～

校長 棗 まゆみ

6 月は子供たちが「本物に触れる体験」をたくさん実施しました。

10 日には「子供のための伝統文化・芸能体験事業」のワークショップで 6 年生が「狂言」を体験しました。狂言大蔵流山本会の方が来校してくださり、6 年生の子供たちは「狂言」の「柿山伏」を体育館で鑑賞したり、狂言で用いられる声の表現（笑う、泣く、動物の鳴き声等）を体験したりしました。



12 日には 3 年生が多摩動物公園へ行き、昆虫に触れる体験をしました。どのように触るとよいのかななどを動物園の方から教えてもらい、普段なかなか見付けることができない「ナナフシ」などの昆虫にも触れることができました。



13 日には 5 年生が稲作体験で実際に田んぼに入って「田植え」をしました。稲作体験は、羽村市立全小学校の 5 年生が体験する活動です。苗を 3～4 本ずつ田んぼに植える作業は、簡単そうに見えますがなかなか難しく、最初は苦戦していましたが、作業が進むにつれ、子供たちはコツをつかみ、上手に植えていました。

22 日（月）には 4 年生が地域安全マップ作りのためのフィールドワークをしました。事前学習で学んだことをもとに、学区をグループでまわり、安全について、自分たちの目と足で確かめることができました。（フィールドワークは 29 日も実施予定です。）

どの体験活動でも、子供たちは目を輝かせ、感覚や感性を働かせて、生き生きと活動に取り組んでいました。本物に触れること、質の高いものに出会うことは、子供たちの「審美眼…物事の真の美しさや価値を的確に見極める能力」を養うことにつながります。五感で「本物」を味わい、感じたことを「言語化」したり、「比較」したりすることで、本物・本質を見抜く力をさらに伸ばすことができます。「活動あって学び無し」にはならないよう、振り返りやまとめ、発表なども各学年・学級で充実させていきます。

校外での活動には、たくさんの保護者や地域の方がボランティアとして子供たちの安全の見守り等にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

筑波大学教授の落合陽一氏が「生成 AI を上手に使いこなせる人と使いこなせない人の差は『審美眼』にある」と指摘していることを本で読みました。未来を生きる子供たちが必要な力をしっかりと身に付けられるよう、教職員一同、力を合わせて、これからも指導・支援していきます。